

令和3年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	7	議席 番号	21	氏名	小松 快造 議員	1/2
発言項目				要 旨		答弁者
1	小中学校での危機管理指導について			<p>本年度も残りわずかとなってきました。卒業式・終業式も終わると、子どもたちの世界は大きく広がっていきます。子どもたちが成長することは親にとっても、また学校の先生にとっても喜ばしいことだと思います。しかし、同時に子どもたちの世界も広がり、行動範囲も広がっていくと心配になるのはやはり「子どもの安全」ではないでしょうか。今回は子どもの安全を守るためにどのような指導ができるのかについて伺います。</p> <p>(1) 冬の時期の日没は早く、少年団活動・部活動などが終了しての下校時にはすでに暗く、黒い学生服などは暗闇に溶け込んで運転手からわかりにくく危険を感じたこともあります。対策や子どもたちへの指導はどのようにされているのか伺います。</p> <p>(2) 朝晩の通学時、自転車を使用されている生徒も一部あります。通勤車両の多い時間帯と、通学自転車の時間帯が重なるため、場所によっては道路幅も狭く危険です。何か対策はないか、また指導はどのようにされているのか伺います。</p> <p>(3) 「転んだら痛い」「刃物は切れる」というような、自ら小さなリスク体験を積み重ねて危険を知る、という教えは昔のことのような気がします。昭和の時代は鉛筆を削るのも、ナイフやカミソリなどで削り使用したものです。刃物の扱い方の指導はどのようにされているのか伺います。</p> <p>(4) 子どもたちの身の回りは常に危険と隣り合わせです。昭和から平成にそして令和へ、子どもたちの危険予知能力をどのように指導され、時代によって変わっているのか伺います。</p>		市長 教育長 関係部長
2						コロナ禍における子どもたちへの心理的影響について

発言 順序	7	議席 番号	21	氏名	小 松 快 造 議員	2 / 2
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
3	これからの農業について考える			<p>日本の農業（農家）には沢山の問題があると考えます。離農や高齢化による担い手不足、食料自給率の低下、耕作放棄地の拡大、海外の安価な輸入による影響など多岐にわたっています。</p> <p>これらの問題から、農業は衰退産業と、感じている人は多いのではないかと思います。3K（きつい、危険、汚い）の代表的な職業イメージが強い農業について伺います。</p> <p>(1) 大規模生産・少量多品種生産どちらも、メリット、デメリットがあると思われませんが、富士宮市における生産方法はどちらが適しているのか伺います。</p> <p>(2) 特に「稼げない」ことに若者たちの離農、後継者不足などこれからの農業の不安材料があります。稼げる農業にするためには、何が必要と考えるか伺います。</p> <p>(3) 新たな販売・販路（流通）を見出すことはできないか伺います。</p> <p>(4) 生産緑地制度について伺います。</p> <p>① 富士宮市の市街化区域内の田畑は、市街化区域と調整区域による固定資産税額の違いはあるのか伺います。</p> <p>② 2022年問題は富士宮市にも影響があるのか伺います。</p>		市長 教育長 関係部長
4	富士宮市「ゼロカーボンシティ宣言」について			<p>(1) 令和3年1月13日市長定例記者会見におきまして、世界遺産富士山のまち富士宮市として、脱炭素社会の実現に向けて、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」に取り組むことを宣言されました。具体的に何をされるのか伺います。</p>		市長 教育長 関係部長